

## 基調講演



講師 岐阜県立可児高等学校教諭

### 浦崎 太郎 氏

1965年岐阜県岐阜市生まれ  
広島大学大学院教育学研究科修了後、岐阜県内の高校で物理を担当  
岐阜県博物館勤務を経て現職  
高校キャリア教育と地域再生の一体的推進の核となる「地域課題解決型  
キャリア教育」を実践。  
中央教育審議会学校地域協働部会専門委員

### 浦崎先生のことば (中央教育審議会学校地域協働部会議事録より抜粋して記載)

「高校生を社会とつなげてやる。具体的に申しますと、まちには自分のまちをよくしようと思って頑張っている大人がいっぱいおられます。そういった地域の課題を解決している現場に高校生を放り込むと高校生はすごく元気になるんですね。魅力的なロールモデルが見つかるので、ああ、そうか、大人になるというのはとても楽しみなことなんだと思うわけです。一方、大人も元気になるんです。最近の若い者はと嘆く大人は多いですが、課題解決の場に来る高校生はすごく素直で、こういう子たちだったら将来を託せるよね、一緒にやっていきたいよねとなっていくわけです。」

「教育活動、連携を通して、例えば、小学校卒業時点、中学校卒業時点、高校卒業時点、そして大学卒業時点で、その子供、若者がどうなっているか、どんな意識、どんなスキルを身に付けているのか、それによって地域がどのように変わっているのか、それを先にイメージすることによって、プロセスは、それぞれ都会、地方、様々な状況に応じて必然的に決まってくると思います。」

「目前の子供や若者が幾段階ものステップを高校を卒業する頃までに登り切る見通しが立てば、我々は教育に対して明るい未来を描くことができると考えます。」

「これから先、地域が再生していく、国力が再生していくためには、やはり人と人、あるいは団体と団体、機関と機関の関係性が変わっていかざるを得ない。それを教育の側面で申しますと、やはり学校だけではなくて、地域のいろいろなステークホルダーが当事者意識、当事者性を高めていくということが必要である。」

## パネルディスカッション

函館は今、行政はもとより、市民や企業、団体といったまちづくりのあらゆる主体が、大幅な人口減少が避けられないといった状況をしっかりと受け止め、危機感をもって、自らの思考と行動により函館のまちを転換させる気概が必要とされています。そして、未来のはこだてを支える人材の育成は重要な課題であり、そのためには地域を好きになってもらおうとする試みを教育に活かすことが重要だと考えられます。

**小さい頃原風景を忘れず、  
楽しかった、良かったという思いを、しっかり持ってもらい、  
やがては函館を離れても、心のどこかは函館を思う。  
そういう大人がたくさん増えてほしい。**

はこだてを好きになる教育 パネリストの皆様とご来場の皆様で探しにいきます。